

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24年 10月 21 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104559		
法人名	株式会社 縁		
事業所名	グループホーム 楽々苑		
所在地	広島市安佐北区安佐町飯室1563番地の2 (082) 835-3222		
自己評価作成日	平成24年9月21日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3470104559-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成24年10月5日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

四方を緑豊かな山々に囲まれ、古くから山陽・山陰の交通の要となる場所に立地しており、近隣には、学校・病院・スーパー・公共施設等がある。運営理念である「自然・安心・快適」を職員一同が念頭におき、法人関連グループ内において毎月会議を行ない、運営・ケアサービス等の意見交換・合同研修会を開催している。運営推進会議には、地域のグループホームが相互に出席し連携強化を図っている。年1回風船バレー大会を開催し、入居者・職員が交流を深めている。協力医療機関・訪問看護ステーションと連携し、日頃の健康管理・急変時の体制も整えている。併設の小規模多機能型居宅介護施設楽々苑や隣接のサービス付き高齢者向け住宅湯楽苑との合同での避難訓練・四季折々の行事等行って交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

★地域に溶け込んだグループホームとして、地域の方に認知症理解の啓発・認知症ケア・介護実技の勉強会などを開催し地域理解と地域との連携強化に取り組まれている。苑庭のウッドデッキでの行事や併設・隣接の関連事業所と連携し利用者の作品展開催などホーム主催の行事を企画されている。又、外壁一体にチューリップや向日葵など季節の花を植え町内住民や近隣の方との交流を大切にされている。★終末期ケアの支援、かかりつけ医や訪問看護師の協力の下、職員研修に力を入れ本人、家族の要望に沿った早期の支援体制作りに取り組まれている。★4年前から地域中学校からの職場体験学習生を受入れ信頼関係が築かれている中、以前から中学生を中心にプラタプ収集がスタートし、地域を巻き込んだ活動として現在も継続されている。その成果として平成20年に当施設「楽々苑」に、平成24年には関連グループの高齢者専用賃貸住宅「湯楽苑」に車イスを贈呈し中国新聞でも報道されている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念「自然・安心・快適」を毎朝、朝礼時に唱和を行ない職員全員で暮らせるよう実践する中で職員も達成感や満足感を少しずつ実感している。今後はさらなるサービスの質向上を目指し職員全員で年間行動目標を定め行動し、理念に近づけて頂きたい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域や小学校の運動会・地域行事には必ず参加している。地域運動会では見学のみではなく、職員が選手として参加している。地域の高齢化も進んでおり、職員の参加は不可欠となっている。	中学校との信頼関係により、夜間、体育館で職員と地域のソフトバレーチームとの合同練習をしている。又、毎年地域の保育園より先生と全児童が来所し、ホームと関連事業所に分かれて歌いながらの肩叩やお遊戯で習った踊りの披露、利用者と一緒に血液さらさら体操を行う等利用者には感動溢れる行事となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎年、中学生の職場体験学習を受け入れ、入居者とのふれあいを経験してもらっている。認知症アドバイザーのいる施設としても活動している。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	多職種の方々に参加していただき、双方向の会議になるようにしている。同一地域のグループホームの運営推進会議にも相互に出席し合い、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、本人・家族・地域住民代表・行政職員・地域同業者・ホーム管理者等で構成組織され定期的に開催されている。事業所の現状や運営課題等を報告討議し、行政職員や出席者から助言を得てサービス向上に活かしている。又、年1回は消防署立会訓練日に併せ運営推進会議を開催し感想、助言を共有し訓練に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	認知症アドバイザーとして地域包括支援センターの依頼により、認知症サポーター養成講座の講師として関わっている。運営推進会議には、区の担当者に出席してもらい課題のある場合は相談している。生活課とは密な連携をとっている。	運営推進会議には毎回、行政職員の出席を得て事業所の実情、サービスの取り組み、課題など話し合い指導助言を受けている。管理者は認知症アドバイザー資格者で認知症サポーター養成講座の講師として積極的に協力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>年間研修の中の1つとして研修を位置づけている。マニュアルを作成し、身体拘束がもたらす弊害を正しく理解し、虐待しないケアを実践している。玄関は施錠しないが、時に、無断外出もあり、センサーを必要時使用している。</p>	<p>身体拘束は社内研修の徹底により全職員熟知し、常に利用者に寄り添い自由な暮らしの支援を実践している。玄関は夜間の安全のため以外は広く開放されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>年間研修の中の1つとして研修を位置づけている。マニュアルを作成し、虐待しないケアを実践している。皮下出血等が見られる場合は、原因を考え虐待行為がないか確認し防止に努めている。</p>	/	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>保佐人から成年後見人に移行された入居者がおられたため「かけはし」担当者より直接説明を受け支援をおこなった。職員全員が理解できるよう周知した。</p>	/	
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>時間をかけ丁寧に説明している。重度化した場合、医療連携の体制については特に詳しく説明し、同意を得ている。</p>	/	
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議において、入居者・家族が意見・苦情等がなんでも言い合えるよう、雰囲気づくりには留意している。参加者全員が発言できるようしている。</p>	<p>家族の意見や要望は運営推進会議、家族会、面会時、ご意見箱、電話時などで聴取している。又、家族の精神的悩みに対しても、家族の気持ちをよく理解し受容・共感する事で、少しでも心の負担軽減・リフレッシュにつながる役割も果たしている。家族会に併せた運営推進会議の開催も検討されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>全体会議では意見等を言いにくい事もあり、話しやすい環境をつくり、要望・意見を聞くようにしている。</p>	<p>職員互助会を基軸に忘年会や親睦会など職場を離れ、何でも話し合える環境が醸成されている、その中で管理者は職員が日頃、話せない意見や思いを聴取している。職員意見の反映事例にオムツに関する研修・口腔機能向上研修の開催・職員駐車場の整備希望等がある。</p>	<p>参考 職員互助会の支援例 職員の子供さんが全国剣道大会に出場することが決まり、職員全員で大きな手作りの横断幕を製作し応援された。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>実践者研修・管理者研修・介護福祉士・介護支援専門員等の資格取得の支援を行っている。思いや希望を聞きグループ内の人事異動も行われる。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>施設内研修を月1回行っている。施設外研修には、ひとりでも多く参加できるようにしている。グループ全体での研修も定期的実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>地域の同業者との連絡会・事業所交流会等の集まりに参加し交流を深めている。運営推進会議には相互に参加している。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>事前面談では必ず本人に会い、希望されている事・身体状況の把握を行っている。体験入居により、不安が解消できるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応ができるか話し合いを行っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>早急な対応が必要な相談者に対しては、可能な限り柔軟な対応を行う。場合によっては、隣接する小規模多機能型居宅介護施設・他の事業所へつなげる。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>本人の思い・こだわり・不安などを知る事に努め、共に支えあえる関係づくりに留意している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの中での気づき・出来事を共有し、家族と同じような思いで支援している事を伝えている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>知人に連絡を取りたいとの要望があれば、すぐ対応する。手紙・品物が届けば、お礼の電話をかける手伝いをして、今までの馴染みの関係を保つよう心がけている。</p>	<p>馴染みの人達や家族が訪問された時、状況次第ではスタッフルームを開放し食事や思い出話等、ゆっくりと楽しんで貰ったり、記念写真を撮り帰られるまでにラミネート加工し贈る等工夫して支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	認知症のレベルや性格に関わらず利用者同士と一緒に生活する仲間となっていけるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了しても、行事に誘ったり家族の様子を尋ねたりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で、今までの経歴や趣味を聞いて記録している。意思疎通の困難な場合には、家族や知人から情報を得るようにしている。	何気ない動きや視線、言葉等から本人の潜在する能力や意向を把握し利用者の思いを実現するよう取り組んでいる。午前に利用者となじみが芋を掘り午後、茹でて食べる前、利用者の「ビールが飲みたい」の一言に、ウッドデッキをビアガーデン風にし、利用者・職員全員で茹でたじゃが芋とノンアルコールビールで盛り上がった例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの利用者について、その人独自の生活歴やライフスタイルを知り、個性・価値観等を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	出来ない事より出来る事に注目し、利用者の全体を総合的に把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者や家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。利用者別にケアプランの担当者を決め、計画担当者と共にケアプランを作成している。</p>	<p>利用者一人ひとりに介護計画担当職員を決めている。担当職員は、日々利用者のモニタリングとアセスメントを行い記録し介護計画に繋げている。各ユニットの計画作成担当者と担当職員で、各記録・本人・家族の希望や意見を基に現状に即したケアプランを作成し現場全職員に説明して共有を図り、職員はプラン実施と結果を毎日チェックし表に記録している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>利用者別にファイルを用意し、食事量・排泄・バイタルサイン・身体的状況等日々の暮らしの様子を記録している。勤務開始前には、申し送りノートを確認し、職員間の情報共有をしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者や家族の日々変化する状況や要望に応じて行くため、必要な支援には、柔軟な対応に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域包括支援センターが主催するいきいき体操に参加し、利用者が心身の力をできるだけ発揮しながら生活を楽しめるように連携を取っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。訪問看護ステーションの看護師が利用者の体調をチェックし、それぞれのかかりつけ医に報告している。医師は報告の内容を見て、必要があれば適切な処置を行っている。</p>	<p>訪問看護ステーションとの連携により毎週火曜日、午前中に看護師が全利用者の現状把握を行い結果をかかりつけ医に報告し午後、かかりつけ医に受診（月1回～2回）している。受診結果は家族に毎月1回医療連携ノートにまとめ送っている。体調変化や急変時対応は24時間の医療連携体制が組まれている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>訪問看護ステーションの看護師により、週に1回訪問と24時間いつでも相談できる体制が整っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、介護サマリーを医療機関に提出し、本人に関する情報の提供・ケアについての話し合いを行っている。長期入院は本人のダメージはもとより家族・事業所にとっても負担になるので、早期退院になるようアプローチしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時には、重度化・看取り指針を渡し、説明している。重度化した入居者の介護については、マニュアルを作成しているが、現在看取りの希望は無い。入居者・家族の意向を踏まえ医師・職員が連携を取りながら取り組んでいきたい。</p>	<p>事業所は利用者・家族の要望があれば終末期ケアを行う方針である。看取りの事例はないが、かかりつけ医、看護師の協力を得て全職員の研修を行い早期の体制作りに取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>けが・骨折・発作・のど詰まり・意識不明等の対処方法、救急救命法の学習や訓練を実施している。夜勤時の他事業所との連携も行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>マニュアルを作成し、年2回避難訓練を実施している。消防署員の立ち会いの下に、併設事業所・隣接の高齢者向け住宅と共同で行い、災害時には協力し対応するようにしている。</p>	<p>年1回消防署立会の訓練に併せ運営推進会議を行い、消防士のアドバイス等から、地域の出席者から訓練の在り方、地域の協力体制の意見も出ており、早期実現に向けて取り組んで頂きたい。消防署のアドバイスで夜間安全な避難経路確保のため、食堂の机とイスを毎日1か所に片付けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人が出来る事を尊重し、いつも入居者に声かけをし対応している。トイレ使用時は、カーテンを引き、プライバシーに配慮している。目立たずさりげない言葉かけを実施している。	毎年、全職員の内部研修を行い共有強化を図っている。日々のケアの一瞬一瞬にも心を配り尊厳を大切に支援を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりが思い・希望が言えるよう、表情・しぐさ・声のトーンに注意を払いながら、言葉かけを行うように心がけている。また、自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応をしている。職員の都合に合わせて合わせるのではなく、望んでいるペースで暮らしの支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の生活習慣に合わせた支援をし、行事にはおしゃれや化粧を楽しんでもらっている。なじみの美容師さんに希望のカットや毛染め・パーマをしてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	日頃職員は、弁当を持参しているが、カレー昼食会を開催し、入居者・職員が同じテーブルを囲み楽しく食事をしている。建物裏の畑で出来たじゃがいもを入居者と一緒に堀り、蒸かしいもにし、ウッドデッキでカフェの雰囲気を味わった。	食事は利用者の嗜好や摂食状態に併せ管理栄養士が旬な食材や見た目、楽しめる献立を立てている。月2回のカレー昼食会は利用者と職員は同じものを一緒に食べにぎやかな笑いに包まれている。暖かい日はウッドデッキで自然環境の中、食事やお茶の時間を満喫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>1人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。食事量も個々に合わせて確認するようにしている。栄養バランス・飲水量には特に注意している。トロミ食・ソフト食・ミキサー食等能力に応じ支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後口腔ケア・歯磨きを実施している。本人の能力に応じ職員が、仕上げ・磨きの確認を行っている。義歯は每晚洗浄剤につけきれいにしている。訪問歯科の定期受診もおこなっており、医師の指導・助言の支援を受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>本人の自尊心を傷つけないよう言葉かけにも注意している。排泄チェック表を活用し，一人ひとりの排泄リズムに合わせて誘導・介助を行っている。尿意のない入居者にも時間を見計らって誘導することにより，トイレで排泄できるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの昼夜の排泄パターンや排泄前に表出される、さりげない行動などを丁寧に把握記録し基準表を作成し、表に基づいた早目のトイレ誘導を行っている。排泄のためナースコールを押される利用者から、常に押される前の早目対応の気遣いに喜ばれている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日の体操と一日1500ccの飲水を行い便秘対策に取り組んでいる。お茶の時間の水分補給の重要性について職員間で話し合ったり、身体を動かすことの大切さを常に意識するようにしている。便秘時には、医師に相談し本人の状況に合った処方してもらうようにしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入居者の希望に合わせて入浴・シャワー浴を行っている。入浴を嫌がる人には、入浴を強要せずシャワー浴を行うなど状況に応じ柔軟に対応している。季節に応じ、ゆず湯・菖蒲湯を楽しんでもらっている。苑庭には足湯もある。</p>	<p>入浴は夏期/週3回・冬期/週2回を基本とし、その中で利用者の希望に沿って個別に対応しゆっくり、のんびりコミュニケーションを取りながらの入浴支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの就寝時間・睡眠パターン・習慣を把握している。なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。午睡も気持ちよくできるよう支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個別の内服管理票ファイル・お薬手帳を活用し薬についての理解を深め、確実に内服出来るよう支援している。服用時には、3回確認している。協力関係にある処方箋薬局の薬剤師さんより、アドバイスや内服指導を受けている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの生活歴や得意としている事を見極め、役割・出番作りをしている。トレイ拭き・植木の水やり・洗濯物たたみ等の役割作り、テレビでの野球観戦ひいきの球団の応援、生花・習字などの場面でも主役になれるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>地域の行事への参加や定期受診など必要に応じて支援している。天気の良い日には、苑庭のウッドデッキに出てティータム・散歩等し、気分転換している。家族と近隣のスーパーに出かけ外食やショッピングを楽しんでいる。</p>	<p>利用者が重度化してきており、車イスを使った個別対応の外出支援を行っている。天気の良い日は近所への散歩や買物、ウッドデッキでの外気浴を行っている。普段行けない場所にレンタカーを借り利用者全員と家族、職員で安芸高田市の花田植の見学に行かれている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>お金を持つことにより安心されたり、満足されている。家族の同意のもと小額金銭を持っておられる方もあり、買い物等支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	遠く離れた家族への電話希望もあり、スタッフルームの電話を使用してもらい、人目を気にせずお話できるよう配慮している。年賀状・暑中見舞い等だすための支援を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに玄関の飾りを交換したり、行事の写真・レクリエーションの習字を飾ったりしている。自宅あった絵画・写真を持参してもらいご自分が住んでいる家だという意識を高めてもらうようにしている。	緑豊かな自然の中で落ち着いた色彩のホーム、懐かしい玄関内外の設営が心を和ませてくれる。ホーム内は季節の手作り作品や藁細工、灯籠や装飾品等は生き生きとした生活感に溢れている。共用空間も隅々まで掃除が行き届き、換気も良く温湿度も快適に管理されており、居心地よく過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳コーナー・ウッドデッキのテーブルとイス・足湯のベンチ等で、気の合った人同士で楽しくおしゃべりができるように支援している。ひとり静かに習字を行いたい人には、スタッフルームを使用し作品づくりをしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使用されていた品物やなじみの物を持参してもらっている。家族や職員からプレゼントされた品物を飾っている。持参の品物が少ない方には、本人と相談しながら温かい雰囲気になるよう努めている。	ベットとクーラー以外は、出来るだけ自宅での生活環境に近くなるよう調度品や思い出の品等を持参して貰い、本人・家族と話し合い居心地よく過ごせるように配置している。中には住み慣れた自宅を航空撮影し拡大した写真を飾り思い出話をされる利用者もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室の入口に目印として壁掛けを飾り、居室を迷わないようにしている。廊下・ホールの灯りはダウンライトを使用し、歩行しやすいよう灯りを調整している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	楽々苑の理念である「自然・安心・快適」のもと、毎朝の朝礼で管理職と職員で唱和して職員間で共有すると共に、理念に添ったサービスを提供出来るようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	事業所の行事に地域の人やボランティアを招待したり、地域の行事に利用者と参加したりと、相互に行き来して地域との交流を深め、事業所全体が地域の一員だという意識を持っている。また、毎月苑外清掃も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学校の職場体験学習を事業所で受け入れ、座学や体験にて、認知症の特性や対応方法を伝えている。また体験学習後も気軽に立ち寄れる関係を築き、質疑応答にも応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催しており、利用者・家族・市町担当者・関連企業・地域住民・地域包括支援センター・同サービス事業所・知見を有する者等、幅広く参加を呼びかけており、提供しているサービスの報告を行い、相互に意見交換や情報共有にて、サービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議を通じて、地域包括支援センターや介護保険課に取り組み報告や、意見交換を行い、地域の講習会等にも参加して協力関係の構築している。また、介護保険課とはその都度電話や訪問して情報を共有しており、手続き等は訪問し手渡ししている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束は行っておらず、マニュアルを整備し、年に1回は身体拘束について施設内研修を行っている。研修では、身体拘束を行う上での弊害を理解した上で日々ケアを行うように徹底している。また、身体拘束が起こりうる原因を減らす様にしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>マニュアルを整備しており、年に1回は高齢者虐待について施設内研修を行っている。施設内での虐待については、日頃から職員のストレス軽減や利用者の状態に注意して、報告・連絡・相談を徹底しており、家族のネグレクト等にも気を配っている。また、虐待に関する新聞記事等も回覧して啓発している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>マニュアルを整備しており、年に1回は権利擁護や人権保護についての施設内研修を行っている。パンフレット等も施設の玄関に設置して、ご家族等の相談にも随時応じており、必要時はかけはし等を活用し、連携を図っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>見学から契約にいたる間、面接や電話連絡等も行い、十分な説明と質疑応答を行い、相互に納得の上で契約をしている。また、入居時や解約時前には基本的に家族に来苑頂き、再度話し合いの時間を取っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議には、利用者・家族に参加して頂き、意見等を伺っている。面会時には家族より意見や思いを聞き、運営に反映させており、家族会を設置し、会長とも意見交換を重ねている。また、施設入口には苦情BOXも設置している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>全体会議を行っており、職員の意見を聞く機会を設けており、日頃より職員から管理者、管理者から代表者へ意見等の連絡相談体制を整えており、運営に反映するようにしている。またグループ内の管理職会議も月に1回開催しており、代表者と管理者間で意見交換等を行っている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>入職時に職員の思いや希望を聴取しており、入職後も資格取得や希望に応じたグループ内異動等を積極的に働きかけて、意欲向上を図っている。また、職員のクラブ活動も積極的に支援しており、クラブ活動を通じての職場内外の交流を促し、心身のリフレッシュを図っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>月に1回は施設内研修を実施しており、職員が講師をしている。施設外研修においても施設内で案内を回覧して積極的に研修参加出来るようにシフト調整をしたりして働きかけている。また、入職後ではOJTを活用して、日々のレポートにて目標や反省を踏まえて研修を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>同一地域の同業者と連絡会を設立しており、情報交換・意見交換や合同レクリエーション等を行い、相互協力のもと、サービスの向上を図っている。また、関連会社の管理者同志で会議を月に1回行っており、相互の連携や協力を行っており、合同勉強会や行事も行っている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>事前に家族を含め本人とも面談を行い、ニーズの把握を行い、一人ひとりが不安・困り事が言えるような環境をつくり、傾聴・共感出来る関係作りをしている。また、入居前に利用されていたサービス機関の担当者からも情報を収集している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用申込時の面談にて、直接家族より状況を聞いており、利用開始時にも再度意向を伺い、不安や求めている事に応じられるように傾聴・共感している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談時にニーズ把握をしており、当苑でのサービス説明の他に、必要時は他のサービスや他事業所に関しての特性や説明も行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>利用者の得意な事や出来る事を考慮し、役割を持って生活して頂き、それらを披露する場面も提供している。また、人生の先輩として様々な事を聞き、暮らしを共にする生活者として、お互いに支え合い、喜怒哀楽を共有する環境作りをしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時に当苑での生活状況を説明し、家族との繋がりを維持しながら、利用者や家族の思いを共有するように努めている。また、月に1回は利用者の様子を手紙や広報誌等で伝えており、行事参加も促している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族や知人の面会等については、特に時間制限を設けてはおらず、遠方の場合は電話等を使用したり、記念撮影をして関係を維持出来るように支援している。また機会がある毎に、本人の昔の様子等を聞き、日々の会話の中に取り入れている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の生活習慣・趣味等を考慮して、利用者同士が助け合って生活出来るように支援している。また、孤立しそうな場合は職員が間に入り支援しており、配席についても、行事等その都度相性等を考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了後も利用中に築いた関係を大切にしており、電話や面会する事で関係が途切れないように支援している。また、新しい住まい先には本人の情報提供を行っており、本人・家族・関係機関とも関係を継続出来る様にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時や面会時に本人の思いや希望を聞き、職員間で共有して、出来るだけ希望に添えるように支援している。また、困難な場合でも職員が各利用者の立場に立って、思いや意向の把握し、家族対応やインフォーマルなサービスも含めて検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時や面会時にこれまでの生活歴等を家族や知人に聞いたり、日常会話の中からも把握しており、かかりつけ医や関係機関からも情報収集をして把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	業務日誌・行動記録・申し送り等にて一人ひとりの状況把握に努めており、連絡ノートは出勤者が必ず目を通し情報の共有をしている。また、日々のモニタリングも記録して、情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族・かかりつけ医・訪問看護職員・職員等がそれぞれの立場で意見を出し合い、協議して作成している。また、利用者担当を定め密に情報収集を行って、意見を反映している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプラン実施表と個別の行動記録に毎日記載し、連絡ノートや申し送りを活用しながら、情報の共有と共に必要時にはプランの変更も行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>近隣同事業所同士の連携や情報交換にて、状況に応じて対応しており、必要時には行政や地域包括支援センター、民間サービスも視野に入れて活用している。また、本人や家族の依頼に応じて、外出支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>警察や消防には定期的に訪問して協力を依頼しており、運営推進会議の参加も要請している。また、地域の保育園・小学校・中学校とも交流を深めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医は本人・家族の希望により決定しており、訪問看護職員とも連携して良好な関係を構築している。また、医療連携ノートを作成し、月に1回家族に報告しており、必要時には随時の報告を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週訪問看護を受入っており、利用者の健康観察・介護職員の不安や疑問点等も相談しており、訪問看護よりかかりつけ医に毎回結果を伝えている。また、24時間オンコール体制にて、必要時には連絡相談を行い、適切な対応が取れるようにしており、訪問看護の様子を月に1回家族に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と常に、意見や情報交換をしており、入院時には看護要約と共に直接情報提供を行い、入院中も家族や病院関係者と連絡を取り合っており、早期退院に向けて話し合いも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	マニュアルを整備しており、重度化・看取り指針を作成し、契約時に家族に通知している。また、本人・家族の意向を尊重して多様なケースに対応出来るように整備しており、かかりつけ医や訪問看護職員との情報の共有や今後についての意見交換を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを整備しており、年に1回は緊急時対応について施設内研修を行っている。また、救急救命法やAEDの使い方、吸引器の使い方等の講習を定期的受講しており、機器の管理も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを整備しており、年に1回は災害対策について施設内研修を行い、定期的に訓練も行っている。また、運営推進会議等で地域に報告をしていると共に協力を呼びかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	マニュアルを整備しており、年に1回は個人情報保護やプライバシーについて施設内研修を行っている。また、人格やプライバシーに配慮して、施錠等も行わないケアをしており、利用者に対する声掛けにも配慮して行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が自分の思い・希望を気兼ねなく表せるように、日々の会話の中で把握し、支援している。また、利用者本意を念頭において、自己決定出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	各利用者の特性やペースに合わせて支援しており、その日の体調や希望を優先して支援するようにしており、必要に応じて個室や個別対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節や場面に合わせて利用者の衣類を変えており、必要時は家族に連絡して、服や物品を持って来て頂いている。また、本人の希望を取り入れて美容室でのカットやパーマを依頼している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者同士の相性を勘案して、席の配置を決めており、職員も各テーブルに入って、食事の匂い・味・色彩等の話しをしながら楽しんで食事が出来るよう支援している。また、テーブル拭きや食後の片付け等出来る範囲で利用者と協働し、定期的に職員も利用者と同じメニューを用意し、合同で昼食会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	1日の食事量と飲水量を把握しており、利用者に合わせて、食事形態・嗜好物・食事道具を提供している。また、本人や家族からの情報収集も適宜行っており、家族に協力を依頼する事もあり、栄養補助食品の提供等も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	利用者の状態に応じて、職員が仕上げやブラッシング等口腔ケアの支援を行っており、夜間は義歯を外して職員が洗浄している。また、訪問歯科と協力して定期的な診察と職員の疑問等を報告して連携をとっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者ごとの排泄間隔やパターンを把握するようにしており、それに応じて声かけや誘導・介助を行っている。トイレまでの歩行やトイレ動作も生活リハビリと考え、トイレでの排泄を促すように支援している。また、男性利用者用に男性小便器も整備している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	利用者ごとの排便状況を把握しており、体操時の腹部運動やマッサージ、飲水量の増加を促したりして便秘の予防に努めている。また、便秘時の利用者の身体的・精神的弊害を理解して、必要時は医師の指示のもと、各利用者に適した下剤や座薬も使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	時間・回数・シャワー浴等、利用者の希望や状況に合わせて支援している。入浴時は職員と一対一となるのでスキンシップをとりながら様々な話をして、利用者の興味や意欲を引き出すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>利用者ごとの生活習慣・就寝時間・睡眠パターンを把握しており、湿度や室温、服装にも気を配って安眠出来るように支援している。また、日中にしっかりと心と体を動かして夜間の安眠を促し、昼間も状況に合わせて休息出来るようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>利用者ごとの服薬管理表を各自が確認しており、内服薬の変更等があった場合には、連絡ノートを活用して情報の共有をしており、必要時には医師へ情報提供や確認を行っている。また、内服薬は個別に管理しており、内服介助に際しては、声出し確認を行って内服支援をしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>利用者ごとの生活歴や特性に合わせて役割作りをしており、体操時やレクリエーション時でも利用者に合わせて支援している。また、行事等の準備に関しても、特技に応じて協力して頂くようにしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>定期的に苑外の散歩や外出行事を企画しており、本人の希望を踏まえ、地域の行事に参加したり家族との外出を支援している。また必要時には突発的な外出支援にも対応している。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>利用者の能力に応じて管理を行い、必要時には家族と相談して本人管理や使用の支援をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>書道やレクリエーションで字を書く事を日常的にしており、利用者の希望に応じて手紙の代筆や電話の支援をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用の生活空間は季節の花や手作りの作品を飾り、行事の写真等を掲示している。湿度・室温・換気にも気を配り、テーブルは丸テーブルを使用し、トイレは自動スイッチを整備し、心地よく過ごして頂ける様に支援している。また、各トイレや浴室にもナースコールを整備し、安全・安心を提供している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>畳コーナーや居室では気の合った利用者同士が過ごされたり、状況によっては、スタッフルームを活用して個別レクリエーションや家族等との面会を行ったりして頂ける様にしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時に本人・家族と相談して馴染みの物や好みの物を持ってきて頂いたり、居室に家族や職員からのプレゼント等も飾っている。また、毎日居室の清掃や週に1回はシーツ交換を行い、汚染時にはその都度交換し、快適に過ごして頂ける様支援している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>危険物は手の届く所へは置かず、トイレ等は目の届く位置に分かりやすく表示している。入居時は繰り返し場所等を説明して把握出来るように支援している。また、手すりやナースコールも整備している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム楽々苑

作成日 平成24年10月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	運営理念の目標管理について	運営理念に対して、ユニット単位で行動指針をユニットの職員間で設定して行動する事で、運営理念に沿った日々の行動を行う。	半年毎にユニット単位で運営理念についての目標を設定し、半年後は目標に対しての自己評価も行い、反省と見直しを行う。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。